

水源地域対策アドバイザー派遣制度報告書

〔 五ヶ山ダム周辺
佐賀県 吉野ヶ里町 〕

平成 2 4 年 3 月

佐賀県 吉野ヶ里町

目 次

1. 概要		1
2. 水源地域の現状と課題		3
3. 希望指導事項		4
4. アドバイザー派遣概要		5
『アドバイザー提言』		19
5. 今後の取り組み方針		29

平成23年度 水源地域対策アドバイザー派遣事業報告書

1. 市町村の概要

(1) 市町村名

佐賀県神埼郡吉野ヶ里町

(2) 派遣対象地域

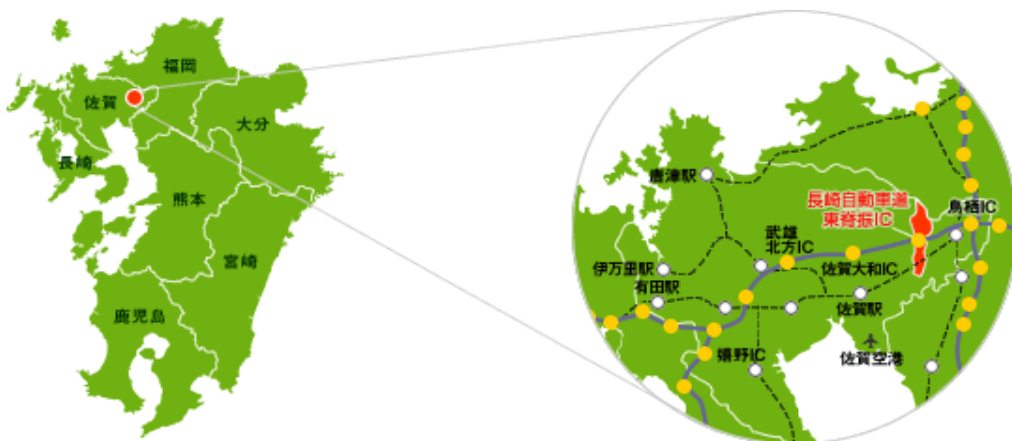
五ヶ山ダム周辺一帯

(3) 町の概要

吉野ヶ里町は、平成18年3月1日、佐賀県神埼郡三田川町と東脊振村が合併して誕生した。佐賀県の東部に位置し総面積43.94 km²、総世帯数5,777戸、総人口16,163人（平成23年3月31日現在）の町である（表1）。

当町は、脊振山地と佐賀平野の2地域からなり、北部は福岡市と福岡県那珂川町に接し、那珂川の上流域にある小川内地区（水没地域）は、佐賀藩の国境警備の任を担ってきた。そのほか国営吉野ヶ里歴史公園、長崎街道、霊仙寺跡（日本茶樹栽培発祥地）、千石山サザンカ自生北限地帯などの豊富な歴史・自然資源に恵まれている。交通の面では、東西に長崎自動車道が通り、町の中央に東脊振インターチェンジが位置している。南北には、福岡市と柳川市を結ぶ国道385号が通っており、東脊振トンネルが開通したことにより、福岡都市圏とのアクセス条件が良好となっている（図-1・2）。

図-1 吉野ヶ里町位置図



吉野ヶ里町ホームページより

図-2 吉野ヶ里町概要図

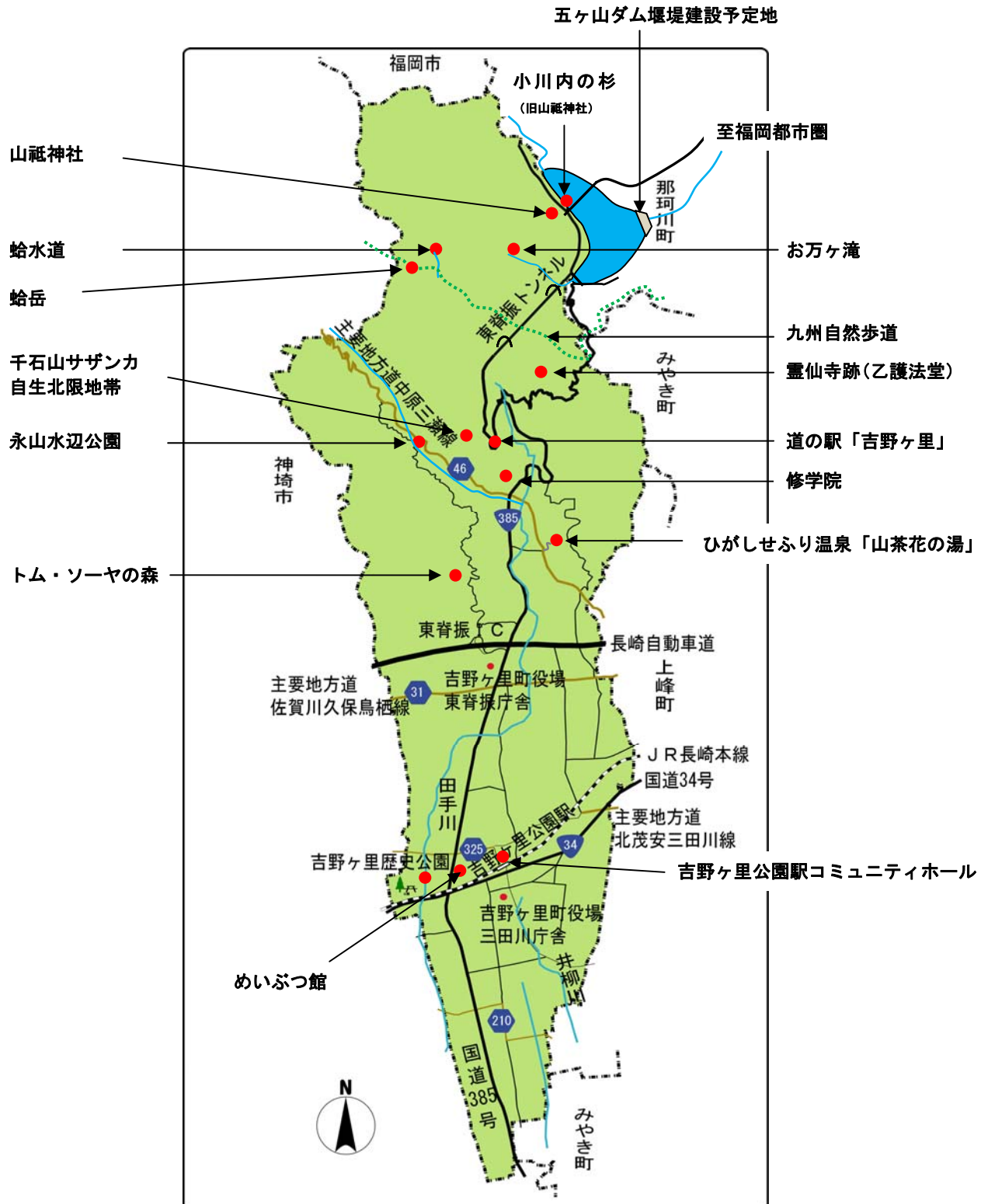


表-1 吉野ヶ里町及び水源地域の人口構成

	世帯数	人 口	高齢者人口
吉野ヶ里町	5,777 世帯	16,163 人	3,169 人 (19.6%)
水 源 地 域	106 世帯	318 人	105 人 (33.0%)

(平成 23 年 3 月末現在 住民基本台帳より)

(4) 水源地域の現状と課題

北部中山間地域に位置する水源地域は、人口減少傾向にありダム建設による集団移転と就業機会が限られることから若年層の減少が著しく過疎化と高齢化が進行している。

水源地域の主要産業は農林業であり、主に、米、麦、イチゴ、みかん、茶、タケノコ、シイタケ等が生産されているが、高齢化による従事者の減少と農林産品の価格低迷から耕作放棄地と山林里山の荒廃が増加し、中山間地域の持つ水源かん養や土砂災害の防止等の多面的機能が損なわれ、水と緑の美しい自然景観も失われつつある。

平成 14 年度、旧東脊振村において水源地域対策アドバイザー派遣事業を受け、産直の農林産物販売促進と新たな雇用創出を目的として、道の駅「吉野ヶ里」、ひがしせふり温泉「山茶花の湯」の整備を行った。現在、これらの施設は地域住民の協力もあり、観光交流拠点としてかけがえのない施設となっている。しかし、今後の産地間競争を考えると農林産物の付加価値を高める加工施設や、販売所の整備と機能強化が必要と考えられる。

現在、町内の加工出荷体制は、小規模な加工所があるのみで、出荷者も組織化されておらず少数の個人高齢者が主体という脆弱な状況であり、福岡都市圏との交流に基づく水源かん養林の整備と既存直売所を中心とした生産者の組織強化に基づく農林業の振興や特産品の開発、観光に繋がる就業機会の創出が喫緊の課題となっている。

(5) 希望するアドバイス内容

吉野ヶ里町総合計画では、水源地域周辺を観光交流拠点と位置づけ、交流人口の増加に基づく地域の活性化を目標としている。今後は、道の駅「吉野ヶ里」とひがしせふり温泉「山茶花の湯」を核として、既存資源の掘り起こしと、新規観光資源の創出に繋がるような施策を検討し、相乗効果による水源地域の活性化を達成したい。そのために、以下の事項についてアドバイスを希望する。

1) 農林業の振興について

- ①中山間地域における耕作放棄地対策
- ②新たな特産品づくり

2) 山林里山の保全について

- ①都市圏住民を交えた水源かん養林整備
- ②竹の活用を通じた適切な竹林管理

3) ダムサイトの活用について

- ①ダム湖畔での施設整備に関し、施設内容と運営形態
- ②ダム湖の活用

4) 自立的な地域振興について

- ①住民の参画による自立的な地域活性化
- ②組織づくりのための人材育成

2. 水源地域対策アドバイザー派遣概要

	派遣日程	内 容	アドバイザー
(1)	第1回派遣① H23. 9. 27～28	現地視察 関係者からの聞き取り	二瓶長記アドバイザー 松村紅実子アドバイザー
(2)	第1回派遣② H23. 11. 1	現地視察	涌井史郎アドバイザー
(3)	第2回派遣 H23. 11. 21～22	現地視察 地元意見交換会	二瓶長記アドバイザー 涌井史郎アドバイザー 松村紅実子アドバイザー
(4)	第3回派遣 H24. 2. 3～4	分科会 報告会	二瓶長記アドバイザー 涌井史郎アドバイザー 松村紅実子アドバイザー

(1) 第1回 アドバイザー派遣概要①

日 時：平成23年9月27日（火）～28日（水）

場 所：吉野ヶ里町内他

内 容：水源地域概要説明、アドバイス希望内容について説明

出席者：二瓶長記アドバイザー（株式会社タップクリエート取締役会長）

松村紅実子アドバイザー（オフィス計都代表）

【国土交通省】 橋本拓哉（国土交通省水源地域振興室長）

田作光良（国土交通省水源地域振興室係長）

【吉野ヶ里町】 田中渉（吉野ヶ里町企画課長）

直塚政浩（吉野ヶ里町企画課副課長）

中島茂（吉野ヶ里町企画課ダム対策係長）

手塚誠（吉野ヶ里町企画課副主査）

【佐賀県】 佐熊昭一郎（佐賀県水資源調整室係長）

【福岡県】 松尾衡（福岡県水資源対策課振興係長）

和田秀幸（福岡県水資源対策課振興係事務主査）

1) 1日目 現地視察

【視察場所】

・「五ヶ山ダム建設事業地」

五ヶ山ダム展望所にて、ダム建設工事の進捗状況等についてダム建設事務所の説明を受ける。

・「^{おがわち}小川内^{すぎ}の杉」（佐賀県指定天然記念物）

^{やまづみ}山祇神社（旧山祇神社）の境内には、大小三株の杉が神木として祀られている。根元で癒合し、根回り13.5m、高さ32m、樹齢500年の巨木である。県の天然記念物に指定され、別名「夫婦杉」と呼ばれている。

・「山祇神社」

水没移転者の生活のすべては山と切り離せないものであり、山祇神社は、山を尊び精神の拠り所として崇敬される地区の中心的場所であった。一年を通じ行事が行われ、その中でも12月5日に行われる大祭では、焚き火で焼いた「ごっくうさん」というおにぎり^{いわし}と「鰯」を食

べ、収穫への感謝と翌年の五穀豊穰を祈った。最大の特徴は、手造りの木刀を東小河内集落(福岡県那珂川町)に向けて立てることである。この風習からは、水没地区が肥前と筑前の藩境にあり、住民が山内刀指しとして国境警備の任にあったことで祭りの中にも緊張感があつたことがうかがえる。この大祭は、移転が完了した現在も引き継がれている。

・「^{りょうせんじあと}霊仙寺跡」(日本茶樹栽培発祥地)

およそ千年に渡り、北部九州の山岳仏教の中心であつた。現在は、江戸時代末期に建立された^{おとごほうどう}乙護法堂を残すのみとなっている。境内には、1191年に栄西禅師が当地に茶の栽培を伝えた歴史に由来し、日本茶樹栽培発祥の地の記念碑がある。

・「^{せんごくやま}千石山^{じせいほくげんちたい}サザンカ自生北限地帯」(国指定天然記念物)

千石山のサザンカは、自生北限地帯として国指定天然記念物となっている。約 2.9ha の範囲に 2,208 本が自生しており、晩秋から初冬にかけて真っ白な花を咲かせる。

・「道の駅『吉野ヶ里』」

平成 18 年にオープンした農林産物直売所。国道 385 号沿いにあり、施設からは佐賀平野、遠くには雲仙普賢岳を望むことができる。東脊振トンネルの湧水が目当ての客も多い。

・「永山水辺公園」

芝生広場やゲートボール場、水遊びができるせせらぎがある。自然に親しむ場、ふれあいの場として多くの人が利用している。

・「ひがしせふり温泉『^{さざんか}山茶花の湯』、『^{おがわち}小川内庵』」

平成 18 年にオープンした「茶」をテーマにした日帰り温泉。露天風呂から家族風呂まで、風呂の種類が豊富である。小川内庵は、水没地域から移築した民家で当時の生活を感じさせる。現在は、会合や食事等に利用されている。

2) 2日目 意見交換と現地視察

【意見交換】(東脊振庁舎大会議室)

- ・町職員から水源地域における取り組みと課題、町のイベント内容説明、農林産業の課題等について意見交換を行った。

【視察場所】

- ・「めいぶつ館」

佐賀の名産品を通じて佐賀をPRする施設。

- ・「国営吉野ヶ里歴史公園」

日本最大級の環濠集落遺跡。弥生時代における「クニ」の中心集落の全貌や弥生時代600年間の全ての時期の遺構、遺物が発見された学術的価値の高い遺跡となっている。

※ 水源地域の活性化及び振興に関し、吉野ヶ里歴史公園との連携の可能性を模索するために視察した。

○アドバイザーからの現地視察及び意見交換感想

■二瓶長記アドバイザー

- ・「兵庫祭り」、「稚児落としの滝」を語り台本を作成し、道の駅や山茶花の湯などで語り部により上演する。吉野ヶ里来訪者がそこに行きたい気持ちになるような仕掛けづくりが必要。
- ・これだけの観光資源があるだけに観光協会はあると思っていたがいないとこのことで驚いている。現在、観光によるまちづくりの機運が高まっているだけに、ぜひ観光協会の設立を検討すべきではなかろうか。観光協会が地域づくりや人材育成などの事業展開をしているケースが注目されだしている。
- ・ある民間の調査会社が実施した“観光でどの地域に行きたいか”とのアンケート調査によると、

第1位 「おいしい地域固有の食べ物がある地域」
なければ、ぜひ開発をしてもらいたい。

第2位 「歴史建造物がある地域」
吉野ヶ里歴史公園、蛤水道、霊仙寺跡などがあり、十分すぎるくらいある。

第3位 「魅力あるイベントのある地域」
「聖茶まつり」や「吉野ヶ里炎まつり」がある（ただし、

現状のままではく精査が必要)

第4位 「お土産品や特産品がある」

竹加工品や竹弁当とお茶をセットとした土産品の開発

- ・ぜひ、「語り部育成塾」を立ち上げてほしい。語り部の知識だけでなく話し方など専門家を招いてエンターテイナーとしての養成が必要である。これも、なるべく民間主導で行うほうがふさわしい。
- ・回遊性についてはぜひ検討すべきである。それには観光的拠点を定めてそれをどのようにつないでいくかを工夫する必要がある。たとえば、スタンプラリーなどの形式での魅力づくりをする必要がある。

■松村紅実子アドバイザー

- ・「聖茶まつり」を霊仙寺跡で開催するのは難しいと思われる。現地では式典を催し、目的に沿った機能分散をする。
- ・平成14年度に提言した、国道385号と「弥生のみやこ」のキャッチフレーズが活かされていない。
- ・イノシシについて、大分ではシシバーガー、イノシシのしゃぶしゃぶ、イノシシ料理コンテストを開催している。
- ・道の駅では、野菜販売を館内から出した方がよい（屋外販売）。せっかくの眺望が活かされていない。販売の方法を工夫し、もっと景色を見せる仕掛けが必要ではないか。
- ・小川内庵は殺風景で本来の家の生活が想像できない。もっと小川内の生活の説明や生活用品の展示も必要ではないか。この場所で、お茶関係の展示はいらない。
- ・福岡都市圏の住民に関心を持たせること。流域の地域おこしグループとの連携を模索する。
- ・大分の自治体では、観光協会の「長」を全国公募しているところがある。JTBやハーモニーランド出身者なども選任されている。行政からは距離をおいて、観光部門での独自の利益を得るかたちにするのもいい。



五ヶ山ダム展望所



霊仙寺跡（乙護法堂前）



道の駅「吉野ヶ里」



関係者聞き取り

(2) 第1回 アドバイザー派遣概要②

日 時：平成23年11月1日（火）

場 所：吉野ヶ里町内他

内 容：水源地域概要説明、現地視察

出席者：涌井史郎アドバイザー（東京都市大学環境情報学部教授）

【国土交通省】鈴木正典（国土交通省水源地域振興室課長補佐）

【吉野ヶ里町】田中渉（吉野ヶ里町企画課長）

直塚政浩（吉野ヶ里町企画課副課長）

中島茂（吉野ヶ里町企画課ダム対策係長）

【視察場所】

- ・「五ヶ山ダム建設事業地」
- ・「小川内の杉」
- ・「霊仙寺跡」
- ・「千石山サザンカ自生北限地」
- ・「道の駅『吉野ヶ里』」
- ・「永山水辺公園」
- ・「ひがしせふり温泉『山茶花の湯』」、「小川内庵」
- ・「国営吉野ヶ里歴史公園」



サザンカ自生北限地



山茶花の湯（駐車場）

(3) 第2回 アドバイザー派遣概要

日 時：平成23年11月21日（月）～22日（火）

場 所：吉野ヶ里町内他

内 容：現地視察及び住民との意見交換会

出席者：二瓶長記アドバイザー（株式会社タップクリエート取締役会長）

涌井史郎アドバイザー（東京都市大学環境情報学部教授）

松村紅実子アドバイザー（オフィス計都代表）

【国土交通省】鈴木正典（国土交通省水源地域振興室課長補佐）

田作光良（国土交通省水源地域振興室係長）

【吉野ヶ里町】田中渉（吉野ヶ里町企画課長）

直塚政浩（吉野ヶ里町企画課副課長）

中島茂（吉野ヶ里町企画課ダム対策係長）

手塚誠（吉野ヶ里町企画課副主査）

【佐賀県】佐熊昭一郎（佐賀県水資源調整室係長）

【福岡県】松尾衡（福岡県水資源対策課振興係長）

和田秀幸（福岡県水資源対策課振興係事務主査）

【関係団体】道の駅「吉野ヶ里」、さざんか工房、

ひがしせふり温泉「山茶花の湯」、さざんか塾、

NPO弥生吉野ヶ里

【地域住民】水没移転者、水源地域地区区長、吉野ヶ里町

観光みらい会議メンバーなど約50名

1) 1日目 現地視察及び住民との意見交換会

【視察場所】

- ・「交流研修施設整備事業予定地」（ダム湖畔）

- ・「^{はまぐりすいどう}蛤水道」

元和年間（1615～1624）、成富兵庫茂安^{なりとみひょうごしげやす}によって築かれた人工水路である。那珂川支流の大野川水系上流部の^{はまぐりだけ}蛤岳から佐賀県側の^た田手川^{でがわ}水系へ水を流す総延長1,260mの用水路である。水路には「野越^{のこ}し」を設け、大野川水系にも^{いつりゅう}溢流を落とす仕組みがある。

- ・「^{しゅがくいん}修学院」

慶長年間（1596～1615）、佐賀藩の藩祖鍋島直茂^{なべしまなおしげ}により再興された天台宗の古刹。桜の名所としても知られている。

- ・「吉野ヶ里公園駅コミュニティホール」

J R 吉野ヶ里公園駅北口に併設されている。産業、観光、文化の振興の拠点、また情報発信地として機能する施設。

【意見交換会（きらら館）】

水没移転者、水源地域地区区長、吉野ヶ里町観光みらい会議メンバーなど約 50 名との意見交換会を実施した。

2) 2 日目 現地視察

【視察場所】

- ・「九年庵」^{くねんあん}（神崎市）

佐賀の実業家、伊丹弥太郎の別荘として明治時代に建てられた。九年の歳月を費やして築かれた庭園は、国の名勝に指定されている。

※ 水源地域の活性化及び振興に関し、九年庵との連携の可能性を模索するために視察した。

- ・「ひがしせふり温泉『山茶花の湯』」

山茶花の湯で入浴後、地産地消の昼食をとる。

○アドバイザーとの意見交換

■二瓶長記アドバイザー

- ・蛤水道を視察した。素晴らしいところだが現在のところ観光に活かされていないのが残念である。単に「素晴らしいから歩いてごらん」の呼びかけでは人は歩かない。歩かせるための仕掛けが必要である。まず、ウォーキングイベントを仕掛けることが必要であろう。
- ・「聖茶まつり」は、各催しの羅列ではなく催しごとの有機的なつながりのある、いわゆるストーリー化する必要がある。そうすることで情報発信力は高まるし、歴史的に見ても全国発信の価値は十分にある。
- ・イベントは、一過性と言われるが一過性と一回性は違う。一過性とはイベントという一陣の風が通り過ぎてしまい、通り過ぎた後は以前と変わらずの平々凡々の日常が経過していくことである。一回性とは、たとえイベントが一回限りのものであっても、イベント後に地域や住民意識が変化をきたし、活力ある地域に変身していく力が生まれるという

ことである。つまり、たとえ一回性であっても一過性にしないように心がける必要がある。

- ・吉野ヶ里町も茶の発祥の地という取り組みで全国発信を心がけたいなら、意外性とか希少性という発想で全国的にも注目を浴びるような仕掛けが必要である。たとえば、愛知県西尾市は、日本一の茶の心といった“おもてなし”の心をもった街づくりを目指し、「一万人の大茶会」を街の目抜き通りで開催し、ギネスブックに登録されている。
- ・埼玉県飯能市の有間ダムでは地域産材である杉材を利用したウッドカヌー工房があり、この工房の一連の活動により、飯能市はエコツーリズム大賞に輝いている。吉野ヶ里町では、竹の産地という特性があるだけに竹材を活用した、いわゆるバンブーカヌー工房の設立などで全国的にも脚光を浴びるのではなかろうか。
- ・栃木県日光市の湯西川ダム湖では水陸両用バスを導入しており、注目を浴びている。
- ・皆さんは意見の相違から住民や団体のコンセンサスが得られず苦慮しているようであるが、そんな方にはカーネギーの書いた「人を動かす法」という本があるのでそれを読んでみたらどうか。私もワークショップなどでその手法を大いに参考にしている。
- ・吉野ヶ里町は森林資源が豊富な地域である。昔、森林は「建築材」とか「燃料」といった資源観でしかなかったが、今は資源観が多様化しており、空気清浄資源、保水資源、景観資源、環境資源、さらに文化芸術資源としても考えられるようになってきている。つまり、地域を多様な資源観で捉えるようになってきている。このように、従来のような既成概念で地域を捉えるのではなく、もっと多様な視点で地域を捉えることで、いままで見過ごしてきた地域資源が見えてくるものである。こうした視点で捉えた地域資源をイベントなり観光交流といった面での活用を積極的に行うことが大切である。

■ 涌井史郎アドバイザー

- ・平成 14 年度は、水源地域をどうするのかという観点で現地を見たが、水源地域を抱える吉野ヶ里町全体の振興と水源地の振興についてどう係わりを持たせていくのかと視点が変わってきている。
- ・バイオマスには将来性がある。水特法の関係で取り組めるのであれば、前向きに進めた方がよい。

- ・竹林は、“へんちくりん”が増えている。竹林が耕作放棄地、里山にどんどん入り込んでいる。竹バイオマス、竹ペーパー等、小さい輪で自己循環出来るモデルが完成されると良い。
- ・日本の原風景「嶽」⇒「奥山」⇒「里山」⇒「野辺」⇒「野良」⇒「里」の構図には、日本人が自然の恵みを最大限に活用する知恵が表れており、この地域にはそうした原風景の片鱗がしっかりと残されている価値に目を向け、それを自覚してほしい。
- ・ダム湖畔に市民交流なり教育訓練の場を整備することによって下流の都市圏の人を上流にポンプアップすることができる。大野土捨場（ダム湖畔のビオトープ）の活用が重要となる。
- ・観光・レクリエーションの方向に大きな変革が生まれつつある。その大きな要因はスピードである。高速で目的地を訪ね、とんぼ返りする移動には飽きが来ており、この地域には車で走っては分からない自然と人の関わりの景観や歴史的な宝がある。例えばテレビ番組「ブラタモリ」にちなんで、「ブラ吉野ヶ里」版のルートを開拓し、深める旅の面白さを提供する考え方もあるであろう。長崎街道の魅力も大いに開拓できる。
- ・高知県には徳島県に水を供給するダムがある。水利権はすべて徳島県にあり、高知県は供給するのみだが副読本を作成して徳島県へ配付した。これをきっかけに下流域との交流が多くなった事例がある。上下交流、それを水源地から受益地つまり福岡側に大いに働きかけるべきであろう。
- ・若い人を動かす方法としては、AKB48をモデルとして学ぶのが良い。すなわち必ずしも一流ではないが、身近な存在であるが故に応援参加をしたいという、参加型の水源地づくりを目指すべきである。

■松村紅実子アドバイザー

- ・吉野ヶ里町の流域連携相手は福岡市となる。大都市を相手にするなら仕掛けないといけない。防災というツールもある。
- ・交流の取り組みは真似をするのではなく、その土地、人間性に合った方法で実施する。
- ・大分県出身の青木茂教授が、中国で竹製のバンブーハウスという災害時の仮設住宅を提案している。
- ・竹の活用について、遊びだけでなく生活の中での使い方を知っている人から利用法を習う。
- ・長崎街道は砂糖が運ばれた。砂糖を使った甘い物で仕掛けができる。
- ・「れ」、「ん」、「け」、「い」のキーワードを作る。
- ・和歌山県の川上村では、村が山林を購入し水源の森を整備した。管理は企業の資金提供により下流域の市民が行っている。



蛤水道（手前が野越し）



住民との意見交換会①



住民との意見交換会②



地産地消の昼食（山茶花の湯）

(4) 第3回 アドバイザー派遣概要

日 時：平成24年2月3日（金）～4日（土）

場 所：吉野ヶ里町内（きらら館）

内 容：意見交換会（分科会方式）及び報告会

出席者：二瓶長記アドバイザー（株式会社タップクリエート取締役会長）

涌井史郎アドバイザー（東京都市大学環境情報学部教授）

松村紅実子アドバイザー（オフィス計都代表）

【国土交通省】田作光良（国土交通省水源地域振興室係長）

【吉野ヶ里町】直塚政浩（吉野ヶ里町企画課長）

田中渉（吉野ヶ里町企画課参事）

中島茂（吉野ヶ里町企画課ダム対策係長）

手塚誠（吉野ヶ里町企画課副主査）

【佐賀県】佐熊昭一郎（佐賀県水資源調整室係長）

【福岡県】松尾衡（福岡県水資源対策課振興係長）

和田秀幸（福岡県水資源対策課振興係事務主査）

【地域住民】水没移転者、水源地域地区区長、吉野ヶ里町

観光みらい会議メンバーなど約50名

1) 1日目 分科会（約80分）

各アドバイザーの分野ごとに分科会を開催した。目的は小規模かつ活発なコミュニケーションを通じ、参加住民の率直な意見を汲み取るとともに、それぞれが抱える課題を直接アドバイザーに伝え、課題解決へのきっかけを報告会に反映させることにある。

①イベント企画分科会（二瓶長記アドバイザー）

二瓶アドバイザーを囲み、町のイベント全般について語り合い。今後の取り組みについて意見交換をした。関係者10名が参加した。



イベント企画分科会①



イベント企画分科会②

②観光・レクリエーション分科会（涌井史郎アドバイザー）

涌井アドバイザーを囲み、観光振興や全国の取り組み、地元の優位性を活かすことなどを語り合った。関係者 12 名が参加した。



観光・レクリエーション分科会①



観光・レクリエーション分科会②

③流域連携分科会（松村紅実子アドバイザー）

松村アドバイザーを囲み、大分の事例などを通して吉野ヶ里町の地域づくりのヒントについて語り合った。関係者 7 名が参加した。



流域連携分科会①



流域連携分科会②

3. アドバイザー提言

(1) 二瓶長記アドバイザー

【イベント】

- ・「夏ふれあい祭り」は、行政主導の様相が強いが自衛隊と住民の交流がうかがえて、いい雰囲気になって上がっているが、イベントの方法と形式が確立されていない。将来、町をどうやっていくかということに繋がっていけば大変有効なイベントとなる。楽しんでばかりではいけない。イベントは実験が許されるメディアであり、イベント企画を通してB級グルメ、ご当地グルメを提案していくことも重要な要素である。
- ・「軽トラ市」は、実に単純なイベントであるが単純性はイベントの重要なポイントである。ただし、地元の出店が30%は少な過ぎる。50%までは持っていかなければならない。そのためには、一過性ではなく次回開催までの1ヶ月間をどうするか商店街と軽トラ市の連動性を検討する必要がある。店ごとの「逸品づくり」を心がけると商店街全体に活気が生まれてグレードアップにもつながることになる。
- ・「バンブーオーケストラ」は、地域資源を活かした活動で大変評価に値する。今後は、音楽性の向上と地域活性化をどう結び付けていくかがポイントで、竹をテーマとした文化産業づくりを心がける必要があろう。特に、竹による文化産業の創造を念頭に「竹ものがたり」野外スペクタクルミュージカルの制作なら話題性もあり発展性も望める。
- ・竹文化の創造をテーマにした企業組合を設立し産業化することを提案したい。竹には照明器具、ベッド、和紙、竹のフローリング、洋服、靴下、竹炭、竹炭の工芸品、それに薬剤など、とにかく数えきれないほど活用の多様性がある。ダム湖との関連で言えば、竹でカヌーもできるのでダム湖面利用と併せて考えれば地域資源を活用したレジャー産業の創造と結びつくことになる。
- ・「炎まつり」は、1日目のストーリーは大変よいのでストーリー化を徹底し、全国への発信性を強化し、常に不動の「メインテーマ」と年ごとに設定する「サブテーマ」の組み合わせで「弥生の都」へのこだわりを持って取り組めばよい。「炎」のイベントを司るコア的役割をもつものとして、日本一の「ジャンボ火起こし」をコンテスト風で開催し全国から出場者を募集し、参加性と競争性を持たせる。火起こしコンテスト優勝者の炎は祭り全体を司るといった展開である。そうすることでイベントのストーリー性がさらに強固なものになる。それに、一般観光客を松明行列にも参加さ

せることでさらに盛り上がりを見せよう。

- ・「聖茶まつり」のネーミングは素晴らしい。着眼点もいいが全国への情報発信力が不足しているのは否めない。霊仙寺、道の駅、山茶花の湯の3会場を作ったことも大変良いがそれらを結ぶ連動性が不足している。その意味では、ストーリー性に欠けている。聖茶を運ぶ「茶壺行列」、栄西禅師の偉業を称える「茶聖・栄西禅師物語」をドラマ化し来訪者のために定期上演をすることなど是非発展させてほしい。人形劇団等が町内にあるなら、人形劇による上演も可能であろう。
- ・イベントも観光もまちづくりも、ストーリー化が重要であることはいうまでもない。ストーリー化とは、ものごとの「有機的連携」のことであり、それらを結びながら流れを創り出す「起承転結」のことである。霊仙寺での一連の行事を「起」、道の駅までの行程が「承の1」、修学院での栄西物語の上演のようなものが「承の2」、山茶花の湯では野点やバンブーオーケストラによる茶音頭の演奏による踊りの参加等は「転」。最後は入浴や地域産品の購入による「結」である。こうした流れを有機的なつながりをもたせて創り上げるのである。
- ・イベントでは「ジャンボソーメン流し」の展開であり、商品開発では、茶壺型の「聖茶弁当」など考えられる。ジャンボソーメン流しは、弥生の都（385）になぞらえ、竹筒を385mに繋ぎ地域産品の茶そうめんを使用するなどの話題性をつくり出す工夫が必要である。

【ダムサイトの活用】

- ・埼玉県飯能市有間ダムでは、ダム湖のほとりに手作りカヌー工房を設けており、よそから持って来たカヌーは浮かべることができない。工房は子ども達も達上下流交流でも活用されている。一艇に何十人も乗れるジャンボカヌーも制作されており、カヌーを通した外国人との交流も盛んに行われている。こうした話題をお聞きになった皇太子さまもこのカヌー工房を訪問されている。
- ・三重県の蓮ダムでは、ダム湖に溜まる流木を利用して木炭を焼いている。地元のお年寄りが木炭づくりに勤しんでおり木炭の出荷もしており、高齢者雇用の促進にも一役買っている。
- ・山形県の寒河江ダムでは、「112」にこだわっている。それは、水没戸数が112戸、国道112号がある、ダム完成が11月2日の11時20分、112mの日本一の大噴水があるという遊び心である。このような遊び心によっ

て湖底に沈む集落を暗いイメージではなく明るいイメージで捉えていこうとする取り組みがストーリー化ということであり、そうすることで対外的にも楽しいイメージの定着化に成功している。

- 神奈川県宮ヶ瀬ダムは、ダムで観光地化した成功事例といえる。清川村ではクリスマスイルミネーション、花火大会、朝市、フリーマーケット、サマーフェスティバル、マラソンなど年間を通じた大小のイベントを開催している。
- ダムサイトには、水をコンセプトにした交流拠点をつくる事がポイント。そこをベースに展開する。コンセプトをもった観光コースづくり、例えば、この地域の歴史、伝説、自然、お茶をコンセプトにしたさまざまな取り組みをする。それから、観光ガイドと語り部の養成をする。
- 観光協会による観光を通じたまちづくり、特に第三種旅行業の資格を取れば、着地型旅行の企画と事業化が可能になる。そうすることでダムサイトを拠点とした発展性が望めることになる。



分科会報告（報告者 宮地孝典氏）



二瓶アドバイザーからの提言

(2) 涌井史郎アドバイザー

【観光レクリエーション】

- ・平成14年度に来た時は、「みんなしゃい」、「来んしゃい」というスローガンがあった。そこに「やりんしゃい」を加えたい。自分たちの地域に誇りと自信を持って、しっかりとした対応（受入れ）をすべきという意味で先ずは行動することと受け止めて欲しい。
- ・この地域における観光は、単なる経済的な効果だけではない。多くの水没者の方々は昔佐賀の為に蛤水道を守っていたが、今は福岡都市圏を支えていこうという心境であり、観光も大事だが、上下流交流にこそ重点があると考えて欲しい。その交流のシーズ〈種〉としては、森林の活用と湖面利用がある。
- ・観光に求める人々の気持ちは、物見遊山型観光から目的型観光に変わってきた。「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」、「ヘルスツーリズム」、「ロングステイ」、「文化観光」、「産業観光」など多岐に亘るが、潜在的に大きいのは都市と農山漁村の交流といわれている。
- ・日本の人口構成は、次第に団塊の世代が高齢者となってくる。これらの人々は、これまでのおとなしい高齢者と違って行動型の高齢者となるであろうと言われている。常に食欲に知識を吸収し行動していきたいと考える層、つまりアクティブシニアとなる。
- ・アクティブシニア世代は、4グループに分類できる。
 - ◇「オールドファッショングループ」昔ながらの高齢者
 - ◇「エンジョイライフグループ」自分でゆっくりのんびり楽しむ
 - ◇「チャレンジグループ」世界一周するぞ！エベレストに挑戦するぞ！
 - ◇「コミュニティグループ」自分の仲間を大事にするそこでこの地域では、「エンジョイライフグループ」と「コミュニティグループ」をいかに惹きつけるかというメニューづくりが肝となる。
- ・最近東京の人が佐賀県を考えると一番に思い浮かべるのは何と、インフルエンザを抑止すると伝説化されマスコミに登場した「R-1」というヨーグルトであった事にも見られるように、人々にとって健康は最大の関心事であるということである。
- ・自己免疫力を強化するために何よりも、都会のストレスから解放されて、リラックスできることがポイントとなる。また都会の人々の間に交わされる話題性も高くなる。吉野ヶ里町はそうした意味でも多くの資源に恵まれている。

- ・この地域の最大の課題は、都会の人々の多様なニーズに対し、自らの資源性を理解し、それをどのように組み合わせ魅力的なプランとして提供できるかのメニュー作りにある。効果ある心身の健康サービスの提供、利用しやすい料金、レジャーとしての楽しみ、この3つの組み合わせを如何に地域資源を発掘・理解して創意工夫するかにかかっている。
- ・例えば、加齢と老化は違う。誰もが加齢するが、老化はモチベーションと生活習慣と環境で決まる。自分に活力を持っていれば自己免疫力も強化される。まさにアクティブシニアが求める要因であり、それを充足できる様なメニューが欲しい。またメニューの素材は十分にある。
- ・「在所一番」の気持ちを再確認する。「おれんところが一番いいんだ」という気持ちを強く持つ。高速道路や新幹線も素通りするが故に、ありきたりの観光地とは違う魅力がここにある。それも一時間も車で走れば懐かしく、自然と共生した色濃い人々の営みに触れあえる場がこの地なのだと考える。これまで忘れていた逍遙や自転車の速度に似合った地域として、全く違う印象をもたらす速度の住み分けをメニューとして提供し、ゆっくり寛ぎ楽しめる仕掛けづくりを大切に考えて欲しい。

◇小さくても美しい

◇楽しみながら学ぶ

◇気付かぬ宝に磨きをかける

そういった心構えを持って、在所一番の気持ちと地域資源を確認する。

- ・イタリア人は、地場のものが一番いいと考えている。コミュニティの言語 コムーネという地域単位があり、例え隣のコムーネのトマトが安くても絶対に買わない。なぜなら、在所一番であり身土不二と考えているから。スローフード運動とは、そうした地域固有の個性ある味覚を食育で伝承しようとする運動である。この地域の素材と味が廃れたら地域が廃れるというのがイタリア人の考え方である。
- ・今「身土不二」という言葉を用いたが、各々の地域では必ずこの土地でしかできない作物、同じ品種でも土が違うが故に味が違うというものを持っている。そうした細やかな土地へのこだわりと自信、そこに立ち返ることが大変重要である。
- ・観光は、豊かさを追い求める時代から深める時代へ変わっている。上流と下流、生産者と消費地の繋がりを演出する為のメニューを創意工夫して欲しい。それこそが魅力ある観光となる。

【ダムサイト】

- ・これからの時代は環境への関心、分けても自分たちの暮らしが何により支えられているのかに大いなる関心が向く。
- ・例えば水源地の立場から、山海連環、つまり、山は海の恋人、川は仲人だとする考え方を、福岡都市圏域の人々に常に訴えかけていく努力を重ねて欲しい。
- ・そうした意味で、藩政時代の水源を守る意味と価値を考える上で、蛤水道は、地元の方が考えている以上に大きな価値がある。
- ・ダム湖周辺の森林については「風致施業」、すなわち材を出す施業ではなくて景観を整える施業方式を徹底して、間伐をやり、林道周辺、県道、国道周辺には必ず修景木を植えていくことによって、その森や林をもっと魅力的なものへ仕上げていかねばならない。それがこの地域の魅力を際立てる背景になる。
- ・湖面利用を積極的に提案するという発想が必要。その意味からも二瓶先生のカヌーのご提案は非常にいい。さらに一部のダム湖で実証されつつある「水陸両用バス」を思い切って導入するという考え方もあるのではないか。吉野ヶ里国営公園とこのダム湖を結ぶルートにそうした先進的なバスを走らせると言った考え方を思い切って導入すべきかもしれない。ある意味で、そうした大胆な湖面利用の案は、今のタイミングで無ければ福岡県との調整が困難かもしれない。水の上から陸を見るのと、陸の上から水を見るとでは全く景色が違う。
- ・福岡県の説明では、ダム湖に“中の島”ができる。そこにあらゆる世代に興味を持って頂けるような見せるビオトープを整備する。陸側の集団施設から浮き橋をかけて渡り、その地で貴重な動・植物の生態を観察できる学習拠点、楽しみながら学ぶことができる拠点としたらよい。

【施設整備について】

- ・観光施設は、小規模に点在される戦略ではバラけてしまって個々の存在が分からなくなってしまう。拠点となる核施設、ルート上の個別の小拠点こうした組み合わせこそが大切となる。まずは幾つかのメニュー別のルート設定があって、集中した拠点を複数、その上でそれを補完する適度な機能分散、連携が必要となる。集中された拠点として発信していけるところは3つしかない。「山茶花の湯」と「道の駅」、そして「ダム湖周辺」に新たに作られる施設と考えるべきであろう。

- ・しかし残念な事に、現状の道の駅は、非常に運営形態が硬直化している。ユーザー・オンデマンドを把握し、来た人が本当にこうして欲しいというような運営形態に事業を合わせる再生を考えて欲しい。例えば営業時間等がそれである。経営効率論ばかりに立たず、ここが唯一の地場農産加工品販売の戦略的デモンストレーション・ショップであるという位置づけを考え、その機能を発揮しなければ創意工夫をした農産加工品を作っても出口なき戦略になってしまう。
 - ・山茶花の湯周辺の活用について、8,000 ㎡は、農産加工所、竹などを利用した体験施設を集中すべきである。もとより加工所に持ち込む前の一次処理を行うような施設は集落内にあってもよい。集落の事情はあろうが、やはり集中の原則に立って欲しい。
- また宿泊に対する要望が非常に強いと思われるので、2,000 ㎡は人的サービスを極力排した貸コテージ、貸長屋を整備し、現代の湯治場とするアイデアの検討の価値が高いと思われる。



分科会報告（報告者 西村真由子氏）



涌井アドバイザーからの提言



大石久一氏（水没移転者）からの質問

(3) 松村紅実子アドバイザー

【流域連携について】

- ・ダム湖周辺は和み考える場所。歴史、災害、水没地の皆さんのことを思いながら地域を考える。
- ・遊び楽しむ事も必要。思い出を作り、また来ようと思わせること。それを地域の人、流域の人が理解し分かち合ってやる仕組みが必要である。一緒に出来ることは何かを考える。
- ・地域はどうあるべきか、大分県の一村一品運動も、初めは何で自分の地域で活かせるかわからなかった。適正を見極め、身の丈にあった地域づくりをする。
- ・治水、利水のための水源地の整備、河川の水質浄化維持のために流域連携を行うが、何を誰がやるのかを決めなければならない。言葉にヒントを求める。連携とは、

- ◇「れ」 連絡網がしっかりしているか
- ◇「ん」 「？」ということで疑問や不満がないか
- ◇「け」 見聞、経験。自分で体験しているか
- ◇「い」 一緒にやること

連携のためのヒントは、

- ◇「れ」 歴史のひもを解き地域のことを知る
- ◇「ん」 運命共同体、仲間、絆のこと
- ◇「け」 結果、何のためにするのか
- ◇「い」 生きること、安心安全な豊かな生活へ繋がっていく

【人付き合いのヒント】

- ・取り組みのヒントとして、「隗より始めよ」の「かい」から…
- ◇隗より始めよ まず、自分から
- ◇界 界限、近所から
- ◇悔、改 これまで後悔してきたこと、改めること
- ◇下位 これまで見えなかった、知られていなかったもの
- ◇壊、懷 壊れているもの、懐かしいもの（古い、歴史）
- ◇怪 怪しげなもの
- ◇甲斐 やりがいがあるように
- ◇介 ちょっとお節介かも知れないが
- ◇皆、解 みんなが理解するまでやりましょう！

- ・人付き合いのヒントはことわざ（言葉の技）にある。
 - ◇「住人十色」 住民の考えはそれぞれ違う
 - ◇「村八分」 わかっている人はわずかしかない
 - ◇「八方美人」 四方八方から情報を集める
 - ◇頑固鳥が鳴くところには閑古鳥が鳴いている
 - ◇胃の中のかわず体内を知らず
 - ◇貧しい人は幸いである…もっと豊かになれる
 - ◇悪は悪を以って制すのではなく善を以って制す
 - ◇仲間は度胸、お上は愛きょう（愛嬌、愛郷）
 - ◇四面そうか 周りが納得するまでやる

【こんなことをやってみよう】

- ・「よしのがり」のヒントは、
 - ◇「よ」 葉（よう・は）と解釈し、お茶を活かす
 - ◇「し」 子女、子どもと女性のパワー
 - ◇「の」 農林業、農山物加工
 - ◇「が」 「学」で歴史を学ぶ教える
 - ◇「り」 隣、となりの家、町、県の付き合いを活かすことから考える
- ・「よ」として、お茶を活かした食べ物。イノシシ肉を使ったお茶のしゃぶしゃぶ。お茶の健康法を学ぶお茶会。茶摘み、美容、Myツリー（オーナー制）、茶飲み仲間をネットワーク化する。栄西が食べた物、成富兵庫茂安が食べた物を調べて地元の食材で再現する。お弁当にしてもよい。
- ・「し」として、子どもと女性。子ども達は大人の世界を見ている。子ども達にダムを見てもらい町の未来について話し合う会を開いてみる。
- ・「の」は、農林業、農産物の活かし方を考えていかななくてはいけない。和歌山県の川上村にある水源の森では、8ヘクタールを村費で購入し、企業が資金を出し市民が管理している。大分県の中津江村は、林野庁と協力して森を整備し、福岡都市圏と交流している。
- ・「が」は学。歴史、風土をもっと知ること。那珂川町の方では、福岡大学の渡辺先生が「はかたわん探検隊」をつくり、学生を五ヶ山ダム建設現場へ見学に連れて来たり、那珂川の歴史（裂田^{さくた}溝^{のうなで}など）の勉強をしている。吉野ヶ里町も定期的なダム周辺地への学習会の機会をつくって地元と交流し宿泊してもらおう。
- ・「り」は隣人、那珂川町や福岡市との交流を増やしていくべき。歴史、食、

自然、健康、暮らしについて、那珂川町の地域グループと交流していく。

- ・女の三種の神器は、「おしゃべり」、「出しゃばり」、「うるさい」。おしゃべりは、お金のかからないPR隊。出しゃばりは、行動力がある。うるさいというのは、なにかしらの情報を持っている、正確性は分からないが。
- ・山茶花の花言葉は、困難に打ち勝つひたむきさ。白い花は、愛嬌、理想の恋とも言う。花言葉をもっと出してPRするとよい。
- ・自分を変える 12 カ条
 - ◇ダメな事には原因がある
 - ◇グチより「解決案」を考えろ
 - ◇過去は過去。でも、未来は創れる
 - ◇人をけなす人は、自分もけなされている
 - ◇人がやろうとする事を見て、自分もやろう！と思え
 - ◇想像できることは、やれること
 - ◇わかってくれる人は、必ずいる
 - ◇嫌いな人ほど、好きな人
 - ◇一人から「全体」のことを考えるようになろう
 - ◇みんなでやれば、できる！
 - ◇夢はわすれないこと
 - ◇自分を愛することから始めよう



分科会報告（報告者 高島正子氏）



松村アドバイザーからの提言

4. 参加者アンケートの検証

報告会において、アンケート調査を実施した。参加者 55 名に対して 33 名から回答を得た（回収率 60%）。

アンケートの結果から、参加した動機は、「依頼があったから」、「知識を深めるため」という回答が多く、総合評価では「とても良かった」、「よかった」と回答した方が 8 割を超える結果であった。町の魅力ある観光スポットとしては、「吉野ヶ里歴史公園」、「道の駅『吉野ヶ里』」、「ひがしせふり温泉『山茶花の湯』」等の既存施設が一定の評価を得たのに対し、「蛤水道」、「筑前街道」、「将来のダム湖畔」等の潜在資源を選択する回答も多かった。

これらの結果から、交流人口の増加によって水源地域活性化を図ることへの意識が高いこと、また町内の観光資源として、既存施設の活用と資源の掘り起こし、交流拠点としての「ダム湖畔」整備の必要性を認識することができた。自由意見では「誰が仕掛けるのか?」、「体験事業に参加したい」、「参加者が少ない」、「提言を試行すること」等の指摘もあった。

5. 今後の取り組み方針

今回、アドバイザーから、全国の事例紹介や経験に基づいた具体的な施策やヒント、受入れ側としての心構えに至るまで多種多様な提言をいただいた。

現在、庁内に水源地域活性化を図るため関係部署からなる「五ヶ山ダム対策会議」を設置している。この会議においてグランドデザインを描き、「道の駅『吉野ヶ里』」や「ひがしせふり温泉『山茶花の湯』」の機能強化と「ダムサイトの利活用」、「拠点集中と連携」、「歴史的資産のストーリー化」等のソフト面の充実を図るため複数の専門部会を設置する。

専門部会では、水没移転関係者をはじめとした地域住民や関係団体へ広く「アドバイザー派遣事業報告書」の趣旨と内容を周知し、情報の共有化と認識を深め、地域活性化の起爆剤となるような施策の検討及び検証を積み重ね自主的な水源地域活性化を図る。

～「水源地域対策アドバイザー派遣事業」アンケート～

『水源地域対策アドバイザー派遣事業』に参加いただきましてありがとうございます。
ご感想をお聞かせください。

該当する項目を○で囲ってください。

問1 あなたの性別及び年代、住所をお答え下さい。

性別 (①男性 ②女性)

年代 (①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑥70代以上)

地区 ()

問2 今回、参加された動機を教えてください。(複数回答可)

- ①参加の依頼があったから ②面白そうな内容だったから
③知識を深めるため ④アドバイザーの先生にひかれて
⑤友人・知人に誘われて ⑥その他()

問3 あなたは最近、小川内に行ったことがありますか？

- ①ある(1～3回程度) ②ある(4～10回程度) ③ある(よく行く)
④ない(機会があれば訪れたい) ⑤ない(行きたいと思わない)

問4 今回の意見交換会・報告会の総合評価(内容・レベルなど)をお聞かせください。

- ①とても良かった ②概ね良かった ③普通 ④ちょっと不満 ⑤非常に不満

※④⑤を選ばれた方は、よろしければ理由をお聞かせください。

問5 一番印象に残った内容は何ですか？(複数回答可)

- ①二瓶アドバイザー(イベント企画) ②涌井アドバイザー(観光・レクリエーション)
③松村アドバイザー(流域連携) ④その他()

問6 町の観光スポットとして魅力があると思われる場所はどこですか？(複数回答可)

- ①吉野ヶ里歴史公園 ②道の駅「吉野ヶ里」 ③「山茶花の湯」 ④蛤水道
⑤さざんか自生地 ⑥霊仙寺跡 ⑦トム・ソーヤの森 ⑧将来のダム湖
⑨長崎街道 ⑩その他()

問7 その他(ご意見、ご質問等があれば自由にお書きください。)

ご協力ありがとうございました。

吉野ヶ里町役場企画課ダム対策係

H23年度 水源地域対策アドバイザー派遣事業アンケート

実施日：平成24年2月4日(土)

		20代		30代		40代		50代		60代		70代以上		無回答	合計	比率
設 問	回 答	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	無回答		
1. あなたの性別及び年代をお答えください。				2	2	3		9		12	2	2		1	33名	
2. 今回参加された動機を教えてください。(複数回答可)	①参加の依頼があったから				2	1		4		8	1	1			17名	51.5%
	②面白そうな内容だったから			2		2		3		3	1			1	12名	36.4%
	③知識を深めるため			1		2		4		5	1	1		1	15名	45.5%
	④アドバイザーの先生にひかれて							1			1				2名	6.1%
	⑤友人・知人に誘われて														0名	0.0%
	⑥その他							1							1名	3.0%
3. あなたは最近、小川内に行ったことがありますか？	①ある(1～3回程度)			2	1	1		6		6		1			17名	51.5%
	②ある(4～10回程度)				1			1		1	1				4名	12.1%
	③ある(よく行く)					1		1		4		1			7名	21.2%
	④ない(機会があれば訪れたい)							1		1	1			1	4名	12.1%
	⑤ない(行きたいと思わない)														0名	0.0%
4. 今回の意見交換会・報告会の総合評価(内容・レベルなど)をお聞かせください。	①とても良かった					2		4		5	2	2			15名	45.5%
	②概ね良かった			2	2	1		3		5					13名	39.4%
	③普通							1		1				1	3名	9.1%
	④ちょっと不満														0名	0.0%
	⑤非常に不満														0名	0.0%
5. 一番印象に残った内容は何ですか？(複数回答可)	①二瓶長記アドバイザー			1		1		1		5					8名	24.2%
	②涌井史郎アドバイザー			1	2	1		4		6	2	2		1	19名	57.6%
	③松村紅実子アドバイザー							2		3	1	1			7名	21.2%
	④その他									1					1名	3.0%
6. 町の観光スポットとして魅力があると思われる場所はどこですか？(複数回答可)	①吉野ヶ里歴史公園			1	1	2		2		4				1	11名	33.3%
	②道の駅「吉野ヶ里」				1	1		3		4	1	1		1	12名	36.4%
	③「山茶花の湯」			1	1	2		3		5	1			1	14名	42.4%
	④蛤水道			2		1		4		8	2	1		1	19名	57.6%
	⑤さざんか自生地			1				1		6	1	1		1	11名	33.3%
	⑥霊仙寺跡			1				3		8				1	13名	39.4%
	⑦トム・ソーヤの森							1		1		1		1	4名	12.1%
	⑧将来のダム湖			2	1	2		6		4	1			1	17名	51.5%
	⑨長崎街道							1			1				2名	6.1%
	⑩その他				1					2					3名	9.1%
7. その他(ご意見、ご質問等があれば自由にお書きください。)	別紙															

問2 今回、参加された動機を教えてください。その他

	意見・要望
1	地域活性化のヒント、手段を求めて

問5 一番印象に残った内容は何ですか？その他

	意見・要望
1	全部が参考になりました。
2	時代により物の見方、考え方など変わるということを学ばせていただきました。ダム活用案も参考になりました。(涌井アドバイザー)
3	発想がすばらしい。(松村アドバイザー)

問6 町の観光スポットとして魅力があると思われるところはどこですか？その他

	意見・要望
1	筑前肥前街道
2	小川内の杉
3	脊振山、九千部山

問7 その他(ご意見、ご質問等があれば自由にお書きください。)

	意見・要望
1	誰がやるかが問題、イベント・観光・流域連携いずれも仕掛け人がいる、それが問題だ！
2	報告会・各先生のパワーポイント・レジュメを是非いただきたいです。
3	山茶花の湯エリア・拠点①2,000 m ² 、湯治宿泊(簡易)②8,000 m ² 農産物加工所、農業体験事業の具体化をソフト・ハード両面から進めて下さい。是非参加させてください。アイデアあります。
4	文部省・MFJ・日本モーターサイクル協会公認の全日本レベルのモーターサイクルの会場などを作る。全国からの参加者、協賛スポンサー、応援隊などで数万人の参加がみられると思われます。
5	実行が難しい、考えは良いが協力をしてもらうことが大事。
6	またやってほしい。
7	東脊振地帯は宝の集結だと思います。これをどう活かすか、町民の未来のためにはどうか？・・を考えて、早く一歩進んでいったらと思います。とにかく自然を活かししょう。宿泊施設は是非必要と思います。蛤水道、林道を生かす。体験型が最も良いと思います。施設は、ある程度はまとめた方がいいと思う。山からの眺めを意識して林道の活用をしてほしい。
8	ダム湖周辺に一番となる基地的な建物が必要である。
9	千坊館の一番の魅力は景観にあると思います。夜景は特にすてきですが、この活用が全くされていないのが残念です。運営形態をもっと考えていただきたいです。山茶花の湯の 2,000 m ² の利活用(コテージ)はgood！です。プラス貸農園は？山岳仏教地を活用したウォーキングコースの開発はどうでしょうか？
10	明日、使える話があった。
11	先生方の意見をそのまま現実に試行(実験)をしてもらいたい。
12	参加対象者を広げたらよかった。参加者が少なかった。
13	涌井先生のアドバイスが非常に参考になった。
14	町民全員がガイドになれるよう吉野ヶ里検定を実施する。
15	一般の聴講者が少なかった点がおしい。